

平成 30 年度

病害虫発生予察情報 第 13 号

6 月月報

北海道病害虫防除所 平成 30 年 7 月 20 日
<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－『並温・多雨・寡照』上旬は晴天続いて高温、中旬は顕著な低温、下旬はぐずついた天気－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かったが、中旬と下旬は気圧の谷や湿った気流、前線などの影響で曇りや雨の日が多かった。気温は上旬は平年よりかなり高かったが、中旬はかなり低く、月平均気温は平年並だった。降水量は中旬と下旬は平年よりかなり多く、月降水量もかなり多かった。日照時間は上旬は平年より多かったが、中旬と下旬は少なく、月間日照時間も少なかった。なお、下旬の日本海側の日照時間は 1961 年の統計開始以降で最も少なかった。

上旬：1 日は気圧の谷の中で、はじめ雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。2～4 日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、2 日と 3 日は雨の降った所もあった。5 日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、夜には雨の降った所もあった。6 日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。7 日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、前線や気圧の谷の通過により雨の降った所もあった。8 日は低気圧を含む気圧の谷が通過して全道的に雨が降った。日降水量は日高町本町で 58.0mm など。9 日は気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側を中心に雨が降った。10 日は高気圧に覆われて全道的に晴れたが、気圧の谷の影響で太平洋側西部などでは雨の降った所もあった。

中旬：11 日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側を中心に晴れたが、気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側西部では雨の降った所があった。12 日は台風第 5 号から変わった低気圧を含む気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定となって全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は鶴居で 89.0mm など。13 日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降った。14～15 日は冷たく湿った気流の影響でオホーツク海側を中心に雨が降ったが、14 日は太平洋側で、15 日は日本海側や太平洋側西部で概ね晴れた。16 日は高気圧に覆われて晴れた所が多かった。17 日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側南部を中心に晴れたが、次第に気圧の谷が接近し雨の降った所があった。18 日は気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所が多かった。19 日は気圧の尾根の中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響により太平洋側では雨の降った所があった。20 日は気圧の尾根の中となって晴れた所もあったが、湿った気流の影響や気圧の谷の接近により雨の降った所が多かった。日降水量は白老町森野で 60.5mm など。

下旬：21～22 日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり全道的に雨が降った。日降水量は 21 日に枝幸町歌登で 64.0mm など。23 日は、はじめ気圧の尾根の中となってオホーツク海側や太平洋側を中心に晴れたが、前線を伴った低気圧が接近して次第に日本海側などで雨が降った。24 日は寒冷前線の通過と大気の状態が不安定となった影響で雨の降った所が多かったが、太平洋側では晴れた所もあった。25 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって太平洋側では晴れた。26 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。27 日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は浦河町中杵臼で 113.0mm など。28 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、太平洋側東部では晴れた。29 日は前線の影響で全道的に雨が降った。日降水量は浦河町中杵臼で 79.5mm など。30 日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線の影響で雨の降った所もあった。

気象表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間は比(%)を示す)

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.2	並	220	か多	85	少
日本海側10地点平均	-0.1	並	235	か多	78	少
オホーツク海側4地点平均	+0.3	並	255	か多	85	少
太平洋側8地点平均	+0.6	並	184	か多	93	並

階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病(葉いもち) 発生期(取り置き苗) やや早 <7月5日付け注意報第5号>

予察田の「きらら397」における取り置き苗(接種)の初発期は、岩見沢市および北斗市では平年より早く、比布町では平年より遅かった。「きらら397」の本田での初発は、岩見沢市および北斗市では平年より早く認められた。比布町では認められていない。

予察田におけるいもち病の発生状況

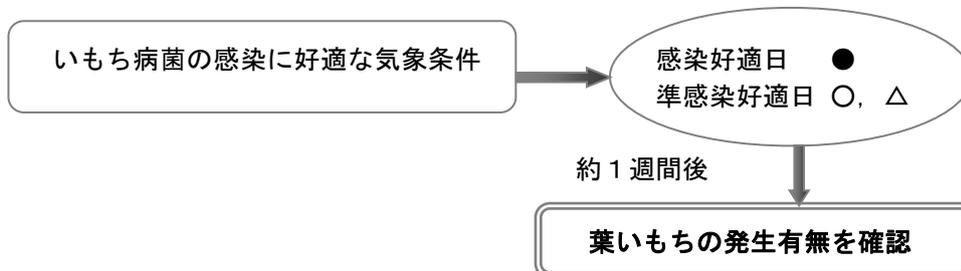
地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月16日	6月29日	7月6日	7月22日	7
	ななつぼし	6月18日	6月30日	7月4日	7月19日	7
比布町	きらら397	7月1日	6月20日	未発生	7月11日	10
	ななつぼし	7月2日	-	未発生	-	-
北斗市	きらら397	6月13日	6月24日	7月11日	7月18日	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

葉いもち発生予測システム「BLASTAM」(プラスタム)の利用方法

BLASTAMは、アメダスの気象データ(気温・降雨・風速・日照)を利用して、いもち病の感染が起こりやすい日(感染好適日・準感染好適日)を予測するものです。

感染のおよそ1週間後頃から、葉いもち病斑が見えるようになります。好適日から約1週間後に、水田内での葉いもちの観察を行きましょう。



BLASTAM予測結果は防除所のホームページで確認できます!!

2. ヒメトビウンカ（第1回） 発生量 少

予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、比布町では平年よりやや少なく、長沼町、北斗市では捕獲が認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	畦畔すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	3.4	20	29.7	0	0.8
2半旬	0	2.1	10	27.5	0	0.3
3半旬	0	3.1	0	12.6	0	0.0
4半旬	0	0.8	0	4.5	0	0.0
5半旬	0	0.6	0	0.1	0	0.0
6半旬	0	0.0	0	0.3	0	0.0
平年数	6		10		10	

3. イネドロオウムシ 発生期 早 発生量 やや少

予察田における産卵初発期は、長沼町では平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。幼虫初発期は長沼町で平年より早く、北斗市で平年並であった。比布町では産卵および幼虫の発生は確認されていない。卵塊数は長沼町および北斗市で平年並で、幼虫の発生量は長沼町では平年並、北斗市では平年よりやや少なかった。

巡回調査では、要防除水準（2卵塊/株）を超える地点は認められていない。

予察田におけるイネドロオウムシの初発期

	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
産卵	5.VI	6.III	-	6.II	6.II	6.III
幼虫	6.II	6.IV	-	6.IV	6.IV	6.IV
平年数	6		10		10	

予察田におけるイネドロオウムシの発生状況

月・半旬	卵塊数(25株あたり)						幼虫数(25株あたり)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0.5	0.0	0	2.4	0	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	2.5	0.6	0	14.6	2.5	1.6	17.5	0.0	0	1.6	0	0.0
3半旬	3.5	0.5	0	26.9	5.5	5.3	1.5	0.0	0	13.8	0	3.9
4半旬	1	1.0	0	29.5	9.5	15.8	5	3.9	0	85.3	1.5	19.7
5半旬	5.5	7.5	0	21.6	11.5	7.5	1	4.8	0	147.5	15.5	28.4
6半旬	8.5	9.2	0	12.0	8.0	6.2	4.5	17.3	0	183.8	71.5	171.8
平年数	6		10		10		6		10		10	

巡回調査によるイネドロオウムシの卵塊数(25株あたり)

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	1.8	2.0	1.6	1.7
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	4	0.8	0.8	0.3	0.8
	北空知	7	1.0	0.9	1.9	1.1
石狩	本所	5	0	0	0	1.0
	北部	7	0	0	0	0.3
後志	本所	4	0	0	0.3	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0.8

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
日高	西部	3	0	0	0	0
渡島	本所	3	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	8	0	0	0	0
	富良野	2	0	0.3	8.5	4.5
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	2	0	0	0	0
留萌	名寄	3	0	0	0	0
	本所	5	0	0	0	0
	南留萌	3	0	0	0	0

4. アカヒゲホソドリカスミカメ(第1回) 発生期 早 発生量 並

予察灯による第1回成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町、北斗市で平年より早かった。誘殺数は、長沼町では平年より少なく、北斗市で平年よりやや多く、比布町では平年より多かった。予察田の畦畔における成虫すくい取り数は、いずれの地点でも平年より少なかった。

巡回調査では、多発生の目安となる畦畔すくい取り捕獲数5頭(第1回発生期)に達した地点は、空知の1地点であった。

アカヒゲホソドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における畦畔すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						畦畔すくい取り数 (20回振り)×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.3	11	1.1	0	0.0	7.5	0.4	0	0.3	0	1.5
2半旬	0	1.5	3	0.9	2	0.0	0	2.1	0	0.6	0	1.0
3半旬	0	5.7	0	1.6	0	0.0	0	9.2	0	0.9	0	0.8
4半旬	0	10.5	6	1.4	0	4.5	0	6.3	0	1.5	0	2.0
5半旬	0	12.6	2	1.7	4	6.8	0	1.9	0	0.0	0	1.3
6半旬	4	21.5	0	2.8	28	12.5	0	3.3	0	0.6	0	2.0
初誘殺日	5月31日	6月12日	6月4日	6月18日	6月7日	6月20日						
平年数	10		10		10		6		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成虫の畦畔すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点	地点数	6月6半旬		普及センター	地点	地点数	6月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	5	0	0	日高	西部	3	0	0
	南東部	2	0	0	渡島	本所	3	0.33	0
	南西部	3	0	0	檜山	本所	2	0	0
	中空知	4	0	0.75		北部	2	0	0
	北空知	7	0.71	1.00	上川	本所	8	0.25	0.50
石狩	本所	5	0.80	0.60		富良野	2	0	0
	北部	7	0	0.43		大雪	4	1.25	0
後志	本所	4	0	0		士別	2	0	0
胆振	東胆振	4	0	0		名寄	3	0	1.00
						留萌	本所	5	0
						南留萌	3	0	0

5. フタオビコヤガ(第1回) 発生量 少

予察田において、第1回幼虫の発生はいずれの地点においても認められなかった。幼虫被害はいずれの地点においても認められていない。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
4半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.1	0	0.0
5半旬	0	0.0	0	1.1	0	0.0	0	0.1	0	1.3	0	0.0
6半旬	0	0.3	0	15.1	0	1.6	0	0.9	0	1.3	0	0.0
平年数	6		10		10		6		10		10	

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう!!

蜜蜂は蜂蜜の生産ばかりでなく花粉交配用として非常に重要な生き物ですが、近年、道内では、農薬によると見られる被害が、水田地帯を中心に毎年度発生しており、深刻な状況にあります。

蜜蜂は、蜜を集めるために6kmも飛行すると言われており、農薬散布を予定しているほ場近くで飼われている場合には、巣箱を移動してもらうか、蜜蜂に影響の少ない薬剤を選ぶとともに、気象条件等を勘案し、活動が活発となる時間帯を避けましょう。

また、農薬散布については、使用する薬剤・時期などを養蜂家に的確に情報提供するとともに、事前の話し合いを行うようにしましょう。

国の蜜蜂被害調査結果や関係する通知等については、農林水産省ホームページをご覧ください。
http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生量 並

予察ほの「きたほなみ」での発生は、長沼町では平年よりやや多く、芽室町では平年並、訓子府町では平年より少なかった。

巡回調査の報告によると、十勝地方の一般ほで発生が認められている。

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	全葉	1.67	0.83	7.61	4.69	24.82	17.65	8
		最上位葉	0.11	0.15	0.70	1.24	7.04	10.79	
		最上-1葉	0.90	0.46	5.58	3.58	33.60	21.47	
芽室町	きたほなみ	全葉	0.98	0.32	4.51	0.89	5.90	5.92	9
		最上位葉	0.00	0.00	0.40	0.31	2.39	4.33	
		最上-1葉	0.23	0.15	2.01	0.80	8.76	6.06	
訓子府町	きたほなみ	全葉	0.01	0.04	0.01	0.19	0.09	1.49	9
		最上位葉	0	0	0	0.04	0.01	0.39	
		最上-1葉	0.01	0	0.01	0.16	0.19	1.60	

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)		普及センター		地点数	病葉率(%)		
			6月3半旬					6月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	—	1.83	留萌	本所	6	—	—	
	南東部	2	—	—		網走	本所	8	0	0
	南西部	5	—	0			清里	3	0	0
	北空知	5	—	—			網走	2	0	0
石狩	本所	7	—	—	美幌		5	0	0	
	北部	5	0	0	遠軽	9	0	0		
後志	本所	3	0	0	紋別	2	0	0		
胆振	本所	3	0	0	十勝	本所	6	—	0	
	東胆振	3	—	—		東部	6	—	—	
檜山	本所	2	—	—		東北部	5	—	—	
	北部	2	—	—		北部	3	0	0	
上川	本所	3	0	0		西部	3	1.67	0	
	富良野	3	—	0		南部	3	—	—	
	大雪	3	—	—						
	士別	3	0	0						
	名寄	2	0	0						

注1) —: 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査

注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

2. うどんこ病 発生量 並

予察ほの感受性品種「チホクコムギ」における発生は、長沼町、芽室町で平年よりやや多く、訓子府町で平年よりやや少なかった。主要品種「きたほなみ」での発生は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても平年よりやや少なかった。

巡回調査の報告によると、6月3半旬時点では胆振、十勝地方の一般ほで発生が認められている。

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)						平年数	
			6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬			
			本年	平年	本年	平年	本年	平年		
長沼町	チホクコムギ	全葉	6.86	5.52	12.54	6.25	18.08	10.90	10	
		最上位葉	0.32	0.49	1.64	1.78	1.54	5.10		
		最上-1葉	3.23	3.54	25.44	9.31	34.60	17.42		
	きたほなみ	全葉	0.01	0.30	0.06	0.32	0	0.33		8
		最上位葉	0	0	0	0.01	0	0.09		
		最上-1葉	0	0.02	0	0.10	0	0.22		
芽室町	チホクコムギ	全葉	22.54	7.31	20.68	11.83	21.86	15.80	10	
		最上位葉	2.55	1.06	6.56	4.30	6.49	9.99		
		最上-1葉	8.88	5.76	16.52	12.46	36.13	23.51		
	きたほなみ	全葉	0.16	0.09	0.19	0.14	0.01	0.20		9
		最上位葉	0	0.00	0	0.01	0	0.03		
		最上-1葉	0.01	0.03	0.01	0.06	0	0.13		
訓子府町	チホクコムギ	全葉	3.05	6.19	7.54	8.57	5.48	12.59	10	
		最上位葉	0.46	0.05	1.02	0.92	1.80	2.40		
		最上-1葉	1.88	1.64	5.82	5.87	9.15	14.57		
	きたほなみ	全葉	0.02	0.13	0.04	0.25	0.01	0.85		9
		最上位葉	0	0	0	0.01	0.19	0.03		
		最上-1葉	0.01	0.01	0.03	0.07	0.09	0.31		

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)		普及センター		地点数	病葉率(%)		
			6月3半旬					6月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	6	—	—	留萌	本所	6	—	0	
	南東部	2	—	—		網走	本所	8	0	0
	南西部	5	—	0			清里	3	0	0
	北空知	5	—	—			網走	2	0	0
石狩	本所	7	—	—	美幌		5	0	0	
	北部	5	0	0	遠軽	9	0	0		
後志	本所	3	0	0	紋別	2	0	0		
胆振	本所	3	0.33	0	十勝	本所	6	—	0	
	東胆振	3	—	—		東部	6	—	—	
檜山	本所	2	—	—		東北部	5	—	—	
	北部	2	—	—		北部	3	0	0	
上川	本所	3	0	0		西部	3	0.67	0	
	富良野	3	—	0	南部	3	—	—		
	大雪	3	—	—						
	士別	3	0	16.67						
	名寄	2	0	0						

注1) —: 調査対象外(5月6半旬で調査終了)につき未調査
 注2) 病葉率: 最上位葉の1枚下の葉の病葉率(25茎調査)

3. アブラムシ類 発生期 早 発生量 やや多

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町では平年よりやや早く、訓子府町では平年より早かった。ムギクビレアブラムシの初発期は、長沼町では平年よりやや早く、訓子府町では平年より早かった。長沼町、訓子府町におけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は平年より少なかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町では平年よりやや多く、訓子府町では平年より多かった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	0	0.0	1	0.0	0	0.0	112	1.3
3半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.0	72	0.2
4半旬	1	2.5	0	0.8	0	0.2	31	1.1
5半旬	0.8	1.2	0	12.2	4.5	0.1	43	0.8
6半旬	—	3.4	5	14.2	—	4.2	94	1.9
初発期	6.IV	6.V	6.II	6.V	6.V	6.VI	6.II	6.V
平年数	10		9		10		9	

注) 25穂あたりの寄生虫数

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生量 多

予察ほにおける成虫すくい取り数は、長沼町および比布町で平年より多かった。

予察ほの春まき小麦におけるムギキモグリバエのすくい取り数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	81.3	15.2	215	112.0
2半旬	41.3	24.8	320	147.8
3半旬	8.3	14.5	5	83.5
4半旬	0.8	8.6	30	22.0
5半旬	2.5	7.3	15	5.3
6半旬	—	3.1	25	8.6
平年数	6		9	

注) 20回振り×5日分換算値

D. 豆類

1. タネバエ (大豆) 発生量 やや多

予察ほの大豆における被害個体率は、長沼町で平年より高く、訓子府町、芽室町では平年よりやや高かった。

予察ほにおけるタネバエの被害状況(%)

	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
被害個体率	50.7	28.7	7.9	2.5	16.0	4.7
健全個体率	28.7	64.1	89.9	92.8	82.7	87.1
他不出芽	20.7	6.9	2.2	4.7	1.3	8.2
平年数	10		10		10	

注) 他不出芽: タネバエ被害以外の不出芽を示す

2. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆) 発生期 並 発生量 やや少

黄色水盤におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの初発期は、長沼町で平年より遅く、訓子府町では平年より早かった。芽室町では捕獲が認められていない。黄色水盤による捕獲数は、長沼町平年より少なく、訓子府町では平年並であった。

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町および訓子府町では平年より少なく、芽室町で平年よりやや少なかった。

黄色水盤によるジャガイモヒゲナガアブラムシの誘殺数と初発期

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	2.6	0	0.6	0.5	0.6
2半旬	0	8.0	0	1.8	2.5	1.4
3半旬	1	3.7	0	0.2	0	0.4
4半旬	2	2.8	0	0.5	0	0.7
5半旬	2	2.8	0	0.3	0.5	0.5
6半旬	1	0.8	0	0.1	1	0.8
初発期	6.III	6.I	-	6.II	6.I	6.III
平年数	10		10		10	

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生状況

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	-	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	3.2	0	0.7	0	0.3
3半旬	0	11.7	0	0.0	2	5.0
4半旬	0	8.7	0	2.4	4	2.8
5半旬	0	9.6	6	1.6	0	3.2
6半旬	2	5.9	0	3.4	0	3.8
平年数	10		9		9	

注) 25株2小葉(計50小葉)あたりの寄生虫数

3. マメアブラムシ(小豆) 発生量 やや少

予察ほにおける初発期は、芽室町で6月5半旬(平年: 6月5半旬)と平年並であった。芽室町における寄生株率は平年並であった。長沼町、訓子府町では寄生が認められなかった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシ寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月2半旬	0	0.0	-	0.2	0	0.0
3半旬	0	1.1	0	0.3	0	0.0
4半旬	0	9.8	0	0.8	0	0.5
5半旬	0	16.4	4	1.7	0	1.3
6半旬	0	18.2	4	8.9	0	7.6
初発期	-	6.IV	6.V	6.V	-	6.VI
平年数	9		10		9	

E. ばれいしょ

＜7月5日付け注意報第6号＞

1. 疫病 発生期 ー

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、芽室町では平年より遅かった。長沼町、訓子府町では未発生である。

巡回調査の報告によると、胆振、十勝地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける疫病の初発期

地点	品種名	本年	平年	平年数
長沼町	とうや	未発生	7月16日	10
	スノーマーチ	未発生	7月22日	9
北斗市	とうや	7月3日	7月9日	10
芽室町	とうや	7月16日	7月9日	10
	スノーマーチ	未発生	7月11日	10
	男爵薯	7月16日	7月8日	10
	紅丸	未発生	7月8日	10
訓子府町	とうや	未発生	7月13日	10
	スノーマーチ	未発生	7月14日	9

一般ほにおける疫病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	発病株率(%)		普及センター		調査地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬					6月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	南東部	1	0	0	網走	本所	6	0	0
後志	本所	4	0	0		清里	3	0	0
胆振	本所	2	1.0	0.5		網走	2	0	0
渡島	本所	2	0	0		美幌	2	0	0
檜山	本所	2	0	0	十勝	本所	5	0	0
	北部	4	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	3	0	0		東北部	1	0	0
	大雪	3	0	0		北部	3	0	0
	士別	1	0	0		西部	3	0	0
	名寄	1	0	0	南部	3	0.7	0	
					釧路	本所	4	0	0
					根室	北根室	3	0	0

2. アブラムシ類 発生量 並

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町で平年より少なく、芽室町、訓子府町で平年よりやや少なかった。ワタアブラムシの発生量は、芽室町および訓子府町では平年より多かった。長沼町では発生が認められていない。モモアカアブラムシは、いずれの地点でも発生が認められていない。

巡回調査では、6月6半旬の調査で全64地点中8地点で寄生が認められた。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.7	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	1.4	0	0.0	0	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0.5	1.3	0.5	0.2	0	0.6	0	0.2	0	0.0	0	0.0
4半旬	0	1.2	0	0.1	0.5	0.8	0	0.5	0.5	0.0	0.5	0.6
5半旬	0	2.4	0	0.1	2	3.2	0	1.8	3.5	0.0	1	0.0
6半旬	0	2.6	0.5	1.5	4.5	8.5	0	3.4	0	0.0	27	0.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点数	6月3半旬		6月6半旬	
		本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0
後志	本所	4	0	0	1.3
胆振	本所	2	0	0	0
渡島	本所	2	1.0	1.0	8.5
檜山	本所	2	0	0	0
	北部	4	0	0	0.5
上川	富良野	3	0	0	0
	大雪	3	0	0	0
	士別	1	0	0	0
	名寄	1	0	0	0
網走	本所	6	0.3	0	0.3
	清里	3	0.3	0	1.3
	網走	2	0	0	0
	美幌	2	0	0	0
十勝	本所	5	0	0	0
	東部	6	0	0	0
	東北部	1	0	0	0
	北部	3	1.3	0	0
	西部	3	0.7	0	0.3
	南部	3	13.3	0	0
釧路	本所	4	0	0	0
根室	北根室	3	0	0	0

注) 10株20複葉調査

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 ー

＜7月5日付け注意報第4号＞

予察ほにおける初発期は、芽室町で平年より早く、長沼町では平年並であった。訓子府町では発生が認められていない。

予察ほにおける褐斑病の発生状況

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	ライエン(HT-39)	7月12日	7月12日	3
	あまいぶき	7月10日	7月10日	8
芽室町	リッカ	7月3日	7月12日	3
	あまいぶき	7月3日	7月13日	6
	スタウト	7月3日	7月15日	8
訓子府町	リッカ	未発生	7月11日	9

2. ヨトウガ(第1回) 発生期 やや早 発生量 並

予察ほにおける産卵の初発期は、長沼町、訓子府町で平年よりやや早かった。卵塊数は、長沼町および訓子府町では平年並であった。芽室町では産卵が認められなかった。

食害程度は長沼町で平年並であった。芽室町、訓子府町では食害が認められなかった。

巡回調査によると、被害株率は最も高い地点でも38%で、要防除水準(被害株率50%)に達した地点はなかった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	3	2.9	0	0.8	0	0.0	1.5	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	4	5.3	0	1.9	0	0.0	5.5	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	4	6.7	0	2.1	1	0.7	8.5	0.4	0	0.2	0	0.0
5半旬	3	3.0	0	1.6	0	0.4	9	7.0	0	1.8	0	0.3
6半旬	2	1.4	0	0.6	1	0.6	10.5	14.4	0	5.2	0	1.4
初発期	6.Ⅱ	6.Ⅲ	-	6.Ⅲ	6.Ⅳ	6.Ⅴ						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点	数	6月6半旬	
			本年	前年
空知	南東部	1	2.0	0
	本所	4	12.5	18.7
	後志	3	4.0	0.7
	本所	4	2.8	2.5
	東胆振	3	9.3	4.0
上川	富良野	3	0	3.3
	大雪	3	0	1.7
	士別	1	0	7.0
	名寄	2	38.0	18.0

注)50株調査

普及センター	地点	数	6月6半旬	
			本年	前年
網走	本所	10	7.0	3.1
	清里	3	2.3	3.0
	網走	2	2.0	0
	美幌	5	0	0
	遠軽	9	14.9	2.7
十勝	本所	5	2.0	2.4
	東部	6	5.7	0.5
	東北部	4	5.0	8.0
	北部	3	0	0
	西部	3	1.3	0
	南部	3	0	0

3. テンサイトビハムシ

発生量 並

予察ほにおける食害程度は、長沼町では平年よりやや高く、訓子府町、芽室町では平年並であった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシの食害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	38	26.4	11	11.5	25	21.9
2半旬	36	26.8	7	11.3	25	24.4
平年数	10		10		9	

4. テンサイモグリハナバエ

発生量 少

予察ほでは、いずれの地点においても被害が認められなかった。

予察ほにおけるテンサイモグリハナバエの被害葉率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.0
5半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.1
6半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.2
平年数	10		10		9	

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病

発生期 並 発生量 並

予察ほにおける初発期は、長沼町で平年よりやや早く、訓子府町では平年よりやや遅かった。6月6半旬における発生量は、長沼町、訓子府町いずれの地点でも平年並であった。

巡回調査の報告によると、空知、オホーツク、十勝地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察ほにおける白斑葉枯病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	6月15日	6月18日	0	0	7.5	5.8	21.5	21.8	8
訓子府町	北もみじ2000	6月25日	6月22日	0	0	0	0.6	3.5	3.8	6

一般ほにおける白斑葉枯病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	発病株率(%)		普及センター		調査地点数	発病株率(%)	
			6月6半旬					6月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	5	0	0	上川	富良野	4	0	0
	南東部	3	1.3	44.4		士別	2	0	14.0
	南西部	1	0	0	網走	本所	8	0.8	0.5
	中空知	1	2.0	3.0		美幌	4	1.0	0
石狩	北部	2	0	0	遠軽	3	0	0.7	
					十勝	東部	2	10.0	0

2. ネギアザミウマ 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける幼虫の初発期は、長沼町、訓子府町で平年よりやや遅かった。寄生幼虫数は、長沼町、訓子府町ともに平年より少なかった。被害程度は、長沼町、訓子府町で平年並だった。

巡回調査では、多発生（寄生株率 51%以上）の地点は認められなかった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.5
2半旬	0	0.1	0	0.0	0.5	1.7	0	4.2
3半旬	0	1.1	0	3.3	3	2.4	4	7.8
4半旬	0.5	7.5	0	23.0	7	5.3	7	22.5
5半旬	3	66.6	37	92.2	11.5	9.7	14	30.5
6半旬	-	196.3	111	562.6	-	16.4	72	42.0
初発期	6.IV	6.III	6.V	6.IV	6.II	6.III	6.III	6.II
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	6月6半旬		普及センター	地点数	6月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	5	1.6	0	上川	富良野	4	3.0	3.0
	南東部	3	0	0		士別	2	0	0
	南西部	3	2.7	2.0	網走	本所	8	4.3	0
	中空知	1	2.0	2.0		美幌	4	6.5	6.0
石狩	北部	2	26.0	22.0		遠軽	3	1.3	2.7
					十勝	東部	1	26.0	0

注)25株調査

H. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 並

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なく、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	1	5.2	18	4.7
2半旬	2	14.6	20.4	5.3
3半旬	0	22.5	25.6	5.0
4半旬	1	24.9	26	7.0
5半旬	1	18.2	14.8	3.1
6半旬	0	11.9	2.8	3.6
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、北斗市では平年より少なく、比布町、芽室町、訓子府町では平年並であった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年よりやや少なく、北斗市で平年並であった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	10	27.8	65	30.0	9	41.5	10	12.3	8	5.5
2半旬	11	33.2	21	38.0	5	44.4	4	4.8	4	6.1
3半旬	10	35.2	2	18.7	4	42.8	2	3.1	0	4.8
4半旬	14	24.8	11	20.7	18	24.7	1	5.9	0	5.4
5半旬	17	59.3	21	15.3	10.6	40.8	1	6.4	2	4.1
6半旬	47	64.2	16	21.3	29.3	23.7	4	6.4	10.7	3.1
平年数	10		3		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	15	1.7	0.8	1.5
2半旬	15	9.5	10.8	5.4
3半旬	8	17.9	23.2	8.7
4半旬	9	24.2	10.8	6.5
5半旬	16	29.3	5.6	19.5
6半旬	18	52.9	13.6	12.9
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

I. りんご

1. モニリア病 発生量 少

長沼町（無防除）および余市町（慣行防除）の予察園では、モニリア病の発生は認められなかった。巡回調査の報告によると、一般園においても発生は認められていない。

予察園（長沼町）におけるモニリア病の発生状況

品種名	昂林			
	実腐花葉叢率(%)		株腐花葉叢率(%)	
	本年	平年	本年	平年
落花10日後	0	0		
落花20日後			0	0

平年値は9年の平均値

予察園（余市町）におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	調査時期	葉腐花葉叢率(%)		平年数
			本年	平年	
余市町B	つがる	6月1週目	0	0.22	10
		6月2週目	0	0.05	
		6月3週目	0	0.07	
余市町C	王林	6月1週目	0	—	—
		6月2週目	0	—	
		6月3週目	0	—	

注) 余市町の予察園は慣行防除

2. 黒星病 発生期 早 発生量 多 <4月10日付け注意報第2号>

長沼町の予察園（無防除）における初発期は、「昂林」、「つがる」ともに平年より早かった。また、余市町Bの予察園（慣行防除）の初発期も平年より早かった。発生量は、長沼町の予察園では両品種とも平年よりやや少なかった。余市町Bでは平年より多く、余市町C（慣行防除）では未発生である。

巡回調査の報告によると、後志、渡島地方の一般ほにおいて発生が認められている。

予察園(長沼町)における黒星病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	昂林	6月1日	6月16日	9
	つがる	6月1日	6月16日	9
余市町B	つがる	6月3日	7月3日	10
余市町C	王林	未発生	—	—

予察園(長沼町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)											
		6月1半旬		6月2半旬		6月3半旬		6月4半旬		6月5半旬		6月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	昂林	2.7	0.2	1.8	0.8	1.4	3.0	2.8	6.3	2.2	9.2	2.6	12.8
	つがる	0.8	0.0	3.3	0.1	1.2	0.8	4.3	3.3	2.0	5.3	2.8	9.8

注) 平年数は9年

予察園(余市町)における黒星病の発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		6月1週目		6月2週目		6月3週目		6月4週目		6月5週目	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町B	つがる	1.40	0	3.40	0	5.10	0	14.90	0.09	—	0.15
余市町C	王林	0	—	0	—	0	—	0	—	—	—

注) 余市町の予察園は慣行防除

一般園における黒星病の巡回調査結果

普及センター		調査地点数	病葉率(%)			
			6月3半旬		6月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
後志	北後志	3	1.50	0	5.23	1.17
胆振	本所	1	0	0	0	0
渡島	本所	4	1.85	0	7.08	5.60
留萌	南留萌	1	0	0	0	0

3. 斑点落葉病 発生期 早 発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における初発期は、平年より早かった。発生量は平年よりやや多かった。

余市町Cの予察園（慣行防除）の「王林」では発生を認めていない。

予察園(長沼町)における斑点落葉病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	王林	6月19日	6月28日	8

予察園(長沼町)における斑点落葉病の発生状況

地点	品種名	新梢病葉率(%)						平年数
		6月2半旬		6月4半旬		6月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林	0	0	0.75	0.20	1.33	0.56	8

4. ハマキムシ類 発生期 やや早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年よりやや早かった。余市町AおよびBでは誘殺が確認されなかった。リンゴモンハマキの初誘殺日は、長沼町で平年より早く、余市町Aでは遅かった。余市町Bでは誘殺が確認されなかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺数は、長沼町では平年並であった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町、余市町Aで平年並であった。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップ誘殺数は、札幌市、旭川市では平年並、岩見沢市、壮瞥町、七飯町では平年よりやや少なかった。石狩市、伊達市では誘殺が認められていない。リンゴモンハマキの誘殺数は、石狩市、伊達市で平年よりやや多く、札幌市、壮瞥町、七飯町では平年並、岩見沢市では誘殺は認められなかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.4	0	0.1
2半旬	0	1.2	0	0.1	0	0.0	1	0.1	0.0	3.2	0	1.3
3半旬	2	2.8	0	0.1	0	0.0	1	4.3	0.4	3.7	0	2.4
4半旬	10	14.3	0	1.4	0	0.3	6	12.0	0.6	3.5	0	4.2
5半旬	20	20.0	0	2.1	0	1.0	27	31.3	6.7	3.8	0	2.5
6半旬	-	24.5	0	4.6	0	2.2	-	38.1	1.3	3.4	0	1.4
初誘殺日	6月14日	6月18日	-	6月21日	-	6月26日	6月7日	6月15日	6月20日	6月12日	-	6月17日
平年数	10		10		10		10		7		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4
3半旬	0	1.4	2.3	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	3.0
4半旬	0.5	2.2	6.3	3.2	0	0.7	0	0.3	0.1	0.4	0	1.6	3	9.9
5半旬	0.8	3.2	11.4	9.2	0	1.7	0	1.2	0.7	0.6	2.3	2.1	4	8.3
6半旬	0.5	1.8	10.0	9.2	0	4.7	0	3.0	0.1	2.7	3.4	5.0	17	5.4
平年数	10		10		7		10		10		9		7	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
2半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.1	0.8	0.0	0	0.0	0	0.2
3半旬	0	0.3	0	0.6	0	1.0	0.2	0.1	0	0.1	0	0.9
4半旬	0	0.5	1.7	1.4	0	0.3	0	0.7	0	0.4	0	0.7
5半旬	0	0.6	4.3	5.3	3	0.4	0	1.8	0	0.8	2.3	1.5
6半旬	0	1.6	12.1	11.4	4.2	1.9	12	6.0	2.9	1.0	4.8	2.5
平年数	10		10		7		10		10		9	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

5. モモシクイガ 発生期 早 発生量 やや少

予察園のフェロモントラップによる初誘殺日は、長沼町で平年並、余市町AおよびBでは平年より早かった。誘殺数は、長沼町および余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年よりやや少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市で平年並、伊達市、壮瞥町、旭川市では平年より少なく、岩見沢市、石狩市、七飯町では誘殺は認められなかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0.8	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.2
3半旬	0	0.8	0.2	1.1	4	0.5
4半旬	2	3.2	0	3.0	4	4.0
5半旬	0	6.4	3.3	5.0	5.8	6.6
6半旬	-	14.3	0.7	11.2	1.2	12.2
初誘殺日	6月18日	6月18日	6月6日	6月20日	6月10日	6月17日
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.8	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0.2	0.3	0	0.3	0	0.1	0	0.3
4半旬	0	0.1	0	0.2	0	0.0	0	0.9	0	1.4	0	0.1	0	0.9
5半旬	0	0.6	0	2.0	0	0.0	0	2.6	0	4.0	0	0.3	1	4.0
6半旬	0	1.3	8.6	3.0	0	0.0	0.6	6.4	3.4	7.1	0	0.6	4	8.4
平年数	10		10		7		10		10		9		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

6. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニの発生は、長沼町で6月5半旬に認められた。長沼町での発生量は平年よりやや少なかった。余市町AおよびBでは発生は認められなかった。ナミハダニの発生は、長沼町、余市町AおよびBのいずれの地点においても認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0	0
2半旬	0	0.8	—	0.1	—	0	0	0	—	0.3	—	0
3半旬	0	0.1	0	0.5	0	0	0	0	0	0.3	0	0
4半旬	0	0.1	0	0.5	0	0.3	0	0.2	0	0.3	0	3.3
5半旬	2	0.3	—	0.2	—	0	0	0	—	1	—	3.2
6半旬	—	0.5	0	0.1	0	0.3	—	0.2	0	6.7	0	2.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

7. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップ誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町AおよびBでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、旭川市、増毛町では平年より多く、岩見沢市、石狩市、壮瞥町、七飯町では平年より少なかった。札幌市、伊達市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	1.7	0	3.4	0	1.9
2半旬	2	0.3	0	1.5	0	0.6
3半旬	0	0.2	0	0.5	0	0.1
4半旬	0	0.1	0	1.3	0	3.9
5半旬	1	1.2	6.7	10.6	6.7	14.2
6半旬	—	2.5	1.3	111.6	1.3	57.1
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	4.8	0	0.1	0.6	—	0	0.1	0	0.1	0	4.8	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	1.7	0	0.3	1	0.0	0	1.3	0	0.1	0	1.5	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.4	0	0.4	0	0.0	0	0.6	0	0.3	0.6	0.3	0	0.0	0	0.0
4半旬	0	0.7	0	0.6	0	0.0	0	1.2	0.3	2.0	0.4	1.4	0	0.0	0	0.0
5半旬	0	5.0	0	0.8	0	9.0	0	1.8	1.4	22.7	0	17.2	10	0.1	0	0.1
6半旬	2.8	32.2	0	0.6	4.2	14.0	0	4.2	5.4	61.3	0.7	93.5	0	0.9	41.4	0.9
平年数	10		10		4		10		10		8		6		10	

注) 岩見沢市の値は2地点の平均。

平成 30 年度

6月15日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性のある箇所を注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

